

普及活動情勢報告（平成18年10月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

ユズのカラーリング玉出荷の目慣らし会が開催された。



カラーリング玉の価格が比較的安定していることから、近年、この出荷が増えている。

10月1日からユズのカラーリング玉出荷が始まる。それに先立つ9月25日、J A土佐あき柚子部畑山、東川支部が合同の目慣らし会を行った。

カラーリング玉の実物や、処理前と処理後の写真を展示し、着色しやすい果実と、そうでない果実について説明した。また、カラーリングを行うと、キズや黒点病が目立つことを指摘し、日頃の管理の重要性を強調した。

J A土佐あき柚子部東川支部の新規就農者及び後継者の現地検討会が開催された。



9月28日、東川支部の新規就農者及び後継者による現地検討会が行われた。これは、支部活動の一環として、若手生産者の栽培技術の向上を目的に、今年から始めたものである。当日は10名が参加し、各自のユズ園を巡回した。中でも、黒点病が少なく、毎年安定した栽培をしている無加温ハウス栽培に、多くの参加者が興味をもっていた。また、新植園では、仕立て方法や防寒対策について熱心に議論が交わされた。

J A吉良川支所ハウスピーマン、シシトウ部会の現地検討会が開催された。



ピーマン（5戸、129a）、シシトウ（3戸、22a）栽培農家全戸の圃場を巡回し、栽培管理・天敵・病虫害防除の状況について、意見交換を行った。天敵利用については、今年も全戸でタイリクヒメハナカメムシを放飼して害虫防除に取り組んでいる。センターは、収量増加と品質向上に活かしてもらうため、前年度の戸別月別出荷量と他産地の事例を提示して、栽培管理の改善を指導した。

認定農業者の計画達成のために、家族経営協定を結ぼう！



家族みんなで話し合いを！

10月16日から18日にかけて、J A土佐あき安芸市青色申告会の研修会を開催した。合計3回の開催で43名の会員が参加した。

「9月の研修会で『皆で認定農業者になろう!!』と経営改善計画をたてたが、その目標の達成のためには、家族みんなが経営に参加することが重要です」と、家族経営協定の紹介と推進をおこなった。

当センターでは、昨年11月22日を「いい夫婦の日」とし、家族経営協定の締結日に設定している。家族が共通認識を持ち協力体制を明確にすることは、経営改善計画を具体化させるのに有効である。

地域リーダー研修会を開催した。



女性リーダーと青年農業士を対象に、安芸地区リーダー研修会を開催した。テーマは「高知野菜のPR技術の向上」。野菜ソムリエを講師に招き、ナス新品種「土佐鷹」を素材に、新たな食べ方や効果的な展示方法など、野菜の魅力を活かしたPR方法を研修した。効果抜群!! 早々、青年農業士、女性リーダーによる県外でのPR活動や消費者を巻き込んだ交流会の自主開催までに話しが及んだ。

ナス新品種「土佐鷹」の普及に向けて第1回品目研究会を開催した。



当センターは、ナス新品種「土佐鷹」の普及に取り組んでいる。
10月12日安芸市穴内地区で、新品種「土佐鷹」の現地研究会を開催した。これは、県域で行っているナス品目別研究会として行ったもので、県下各地から約60人の生産者や関係機関の担当者が参加した。現地では、生育状況の異なる3カ所のハウスにおいて、品種特性に応じた整枝・摘葉や樹勢判断の方法について、実地研修を行った。その後、地元の出荷場へ移動し、現地の講評と「すすかび病」防除等の当面の管理について説明をおこなった。また、園芸連から「土佐鷹」の出荷箱のデザインを検討中、との報告があった。

中芸集出荷場ナス部会現地検討会の開催



中芸集出荷場研究会(安田町、奈半利町、田野町、北川村地区連合)主催のナスの現地検討会が10月13日、約19名の参加で行われた。4戸の栽培農家を巡回後、反省会を実施。振興センターからは(1)現在、ナスにみられている「着果負荷による成り疲れ対策」や(2)難防除病害である「すすかび病対策」についての助言指導を行った。会では、『天候に恵まれているのになぜナスの着果が悪いのか?』『すすかび病の発生時期は?』などといった質問がでた。

『たまにしか参加しないが、来てよかった』という声も聞かれ、内容の濃い会となった。